

医療安全トピックス TOPICS

Vol.101

高井 仁美

日本医療安全調査機構
医療事故調査・支援事業部

医療事故調査制度の効果と アンケート調査結果にみる課題

医療事故調査・支援センターでは、医療事故調査制度に則り事故の発生を報告され、院内調査を終えた医療機関とそのご遺族に対し、初めてアンケート調査を実施しました。その結果の一部ではありますが、医療機関が院内調査を通して感じたこと、ご遺族が調査結果を受けて感じたことについてご紹介します。

●調査概要

本調査は、医療機関が調査の各プロセスで感じた課題等について調査し、医療機関と遺族の適切なコミュニケーションのあり方を検討する際に役立て、「医療事故調査制度運用に伴う質の向上」をはかることを目的として、実施しました。

- ①調査対象：院内調査結果を報告した医療機関 126施設（医療安全管理者に依頼）および該当する遺族
- ②調査期間：2018年の約4カ月間（連続）
- ③調査方法：郵送による質問紙調査（医療機関から院内調査結果の報告を受け、随時アンケート用紙を送付。遺族へは医療機関に転送を依頼）
- ④調査内容：1) 医療事故調査制度の認知度【医療機関・遺族】、2) 医療事故調査制度への意見や感想【医療機関・遺族】、3) 院内調査結果への理解・納得感【遺族】
- ⑤回答数（回収率）：【医療機関】80施設（63.5%）、

【遺族】23（不明）

●調査結果

1. 医療機関の結果

全体としては、院内調査を実施し大変だったと感じていましたが、中立・公正な調査が実施できたことや自ら調査を行うことで再発防止につながる改善点が明らかになったという結果でした。

①院内調査で大変と感じたこと（図表1）

「院内調査を実施して大変だった」と回答した施設は、80施設中78施設でした。具体的には、「報告書の作成」が最も多く43件（53.8%）、次いで「当該医療従事者への臨床経過（事実経過）の聴き取りまたは確認」が32件（40.0%）、「遺族への院内調査結果の説明」が30件（37.5%）でした。

②院内調査で得られたこと（図表2）

「院内調査を実施して得られたことがある」と回答した施設は、80施設中78施設でした。具体的には、「外部委員が参加し中立・公正な調査が実施できた」が最も多く56件（70.0%）、次いで「院内調査のすすめ方が理解できた」47件（58.8%）、「院内の医療安全体制における課題がわかった」45件（56.3%）でした。

③院内に改善する余地があったか（図表3）

「制度に基づいた院内調査を実施したことで、院内において安全な医療を提供するために改善の余地